



広島市女性団体連絡会議

広報紙

第55号

2023年3月

目次

- ひろしま WENET2023 男女共同参画セミナー（報告）・・・1～3
- 選挙管理委員会への申し入れ、2023 国際女性デーひろしま（報告）・・・3～4
- 広島市議会傍聴記、ひろしま WENET からのお知らせ・・・4

ひろしま WENET2023男女共同参画セミナー

「ジェンダーと核兵器禁止条約」報告



2023年2月19日（日）、広島平和記念資料館メモリアルホールで、男女共同参画セミナーを開催しました。今年は、「ジェンダーと核兵器禁止条約」をテーマとし、お二人に登壇いただきました。当日は10代から80代の幅広い年代の約70人が参加されました。

今回のセミナーの目的は、G7広島サミット開催を前に、広島の悲願である核兵器の廃絶を実現するために私たちに何ができるか、2021年に発効した核兵器禁止条約に焦点をあて、その内容や成立までの経緯を学び、条約の中にジェンダーに関する規定もあり、その意味について考えました。

第1部は、中国新聞編集局ヒロシマ平和メディアセンター長の金崎由美さんから「核兵器禁止条約とジェンダー」をテーマにお話を聞きました。

前半は、核兵器禁止条約成立の経緯の説明でした。

—◇—

2010年のNPT(核拡散防止条約)再検討会議では、核兵器を「非人道的な兵器」と位置づけた最終文書を採択。2017年には、核兵器を「抑止力」とすることを否定した核兵器禁止条約が国連で採択され、その年の12月、核兵器禁止条約成立のために中心となって活動してきたNGO、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞を受賞。核兵器禁止条約の条文には、被爆者の苦しみを胸に刻み、被害者へのサポートを行うことをうたい、放射線の被害については、特に女性と少女に不釣り合いな影響を与えること、平等かつ完全に効果的な女性と男性双方の参加と核軍縮における女性の効果的な参加の支持と強化にとりくむことが規定された。

日本の立ち位置は、核抑止力に依存した安全保障政策(米国の「核の傘」)を採用し、核兵器禁止条約

は最後に来るべきもので、日本が条約に入るのは時期尚早、NPTが基軸であり、核保有国と非保有国の「橋渡し」をする役となるとの考えである。

核兵器禁止条約とNPTについて、核兵器禁止条約に賛成する国は「NPTを補完し強化するのが核兵器禁止条約」と主張、反対の国は「NPTを順守しようとする努力に水を差し、悪い影響を与えるのが核兵器禁止条約だ」と主張している。

後半は、「ジェンダー」が核軍縮とどうかかわってきたかの説明でした。

—◇—

2010年ごろから「ジェンダー主流化」への動きが本格化する契機となり、「核兵器の非人道性に関する国際会議」が2013年にノルウェー、2014年にメキシコ、オーストリア(ウィーン)で開催され、ウィーン会議と軌を一にしながら、米国の反原発運動家や国連軍縮研究所が「ジェンダー視点からみる核兵器の非人道性」などの研究報告書を発表。そこで、女性は生物学的に放射線の健康影響について男性よりも脆弱であり、核兵器の社会的影響はジェンダー化され、女性

は心理的健康、社会的スティグマ（個人に非常な不名誉や屈辱を引き起こすもの）、差別などで最も影響を受けると報告された。その後の NPT 再検討会議においても最終文書には反映していないものの、ジェンダーの観点が盛り込まれた。

核兵器をなくす道筋の第 1 のカギはジェンダーの視点から「核兵器の非人道性」を捉えること、さらに第 2 のカギは「女性と男性双方の核軍縮のプロセスでの平等かつ完全な参加」である。

最後に問題提起がされました。

—◇—

問題提起① 「核兵器廃絶」と叫ぶ、あるいは被爆体験を伝えることにとどまらない訴えが必要だ。

世界と日本にある「核抑止依存の背景にあるもの」—男性中心の家父長的な権力構造、既得権益から排除（女性だけでない。核実験被害者、性的少数者、少数民族、地球温暖化で被害を受ける人たち…）—をジェンダーの視点から変革していく努力が大切である。「男性と女性」という二項対立的な考えにとらわれるのも一面的である。

核軍縮交渉や制定プロセスがジェンダー平等でないことへの危機意識は国連にもあった。紛争時は女性が戦時性暴力などの被害者になるが、紛争解決や安全

保障の意志決定は圧倒的に男性である。核抑止の議論も同様で、大量破壊兵器に脅かされる市民や核実験の被害者こそ「当事者」。そう国際社会で自覚されていた中で核兵器禁止条約がある。前文で議論の当事者の多様性がまっとうな議論と、よりよい判断を可能にするという認識、格差なき意思決定への参加という権利意識が大切である。

問題提起② 核兵器をなくしていくための険しい道のり～国際社会とともに歩いていくために～まさに私たち自身が問われている。

○最近 10 年ほどの間、広島での平和、反核、被爆者運動は「ジェンダー」への意識を持ってきたか。私たち報道機関も同様だ。

○被爆地が世界に訴える核被害の「無差別性」だけでなく、「不釣り合いな影響」の強調をどう考えるか。本当は被爆者にも「不釣り合いな影響」は存在してきたはずだ。

ジェンダー不平等は生活の隅々に。

「G7 広島サミット」は、核保有国と核抑止に依存する国で構成されており、市民は首脳たちに何を求めるのか、問われている。「核兵器の不使用」という最低限のことでいいのか。

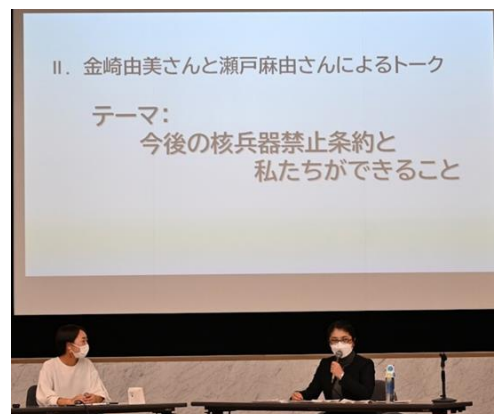


第 2 部は、昨年 6 月にウィーンで開催された「核兵器禁止条約 第 1 回締約国会議」に参加した瀬戸麻由さんから報告がありました。

締約国会議の前に開かれた ICAN 市民社会フォーラムに登壇、被爆者とともにアクションし、核兵器の非人道性に関する国際会議や締約国会議の傍聴やアドボカシー（政策提言や広報活動等）を通じて、「条約を育てる感覚」を持ち、多様なアクションを体験し、多様なアクティビストと出会い、そして「Affected Community」（被害に遭った地域社会の住民）の存在に気づかされたことを報告。そして今、世界の被爆者と出会うユースセッションを行っていることが報告されました。

最後に金崎さんと瀬戸さんお二人が登壇して、「今後の核兵器禁止条約と私たちができること」をテーマにトークしていただき、会場からの質問にも答えていただきました。時間が短く、二人のやり取りをもっと聞きたかったとの声もありました。

講演と締約国会議レポートとも 8 割を超える方が満足との評価でした。講演では「わかりやすくて、とてもよかった」「ジェンダーの視点に気づかされた」「これまでモヤモヤしていたものが晴れた」「感激した」など、ジェンダーの視点で核兵器の問題を考える重要性を認識したという意見が多数を占めました。



瀬戸麻由さんの報告については、「とてもわかりやすい」「若い方たちの活躍に期待する」「その活動に触発された」という声がありました。「被爆者かそうでないか、ではなく、核によりコミュニティや文化を破壊された当事者である視点に納得」という声もありました。

金崎さんからの問題提起は、まさに私たちそれぞれに問われているものです。いわゆる被爆の実相をジェンダーの視点で捉えてきたのか、また広島や長崎だけの被爆者に矮小化してきたのではないかとあらためて自分に問い直す必要があります。また、G7広島サミットに向けて、私たち広島市民は何を要求するのか、真剣に議論をすること、瀬戸麻由さんの報告にもあった若者の活動に学び、若者と連帯して活動を広げる必要があると思いました。(中嶋)



選挙管理委員会への申し入れ (2023年2月10日)

広島市女性団体連絡会議は、統一地方選挙に向けて「選挙権は選挙人一人ひとりに与えられた権利であり、経費削減のために世帯主あてに送ることは一人ひとりの人権をないがしろにするもの。また、世帯主規定はジェンダー平等社会をつくる上で障害となっている。」として広島市選挙管理委員会に要望書を提出しました。

要望書の概要(太字)と市のコメントは以下の通りです。広島市の今後の取り組みに期待します。

1.「選挙のお知らせ」を選挙人一人ひとりに送付すること

→経費の都合だけでなく、同じ住所でも着日が異なった際に選挙人からの問合せが発生する等の事情から、難しい。封書の宛名に全員の名前を記載する方法もあるが、広島周辺に対応できる業者がない。着手中の選挙等システムの更新で可能かどうか検討したい。

2.上記要望が不可能な場合、18歳～初めての選挙権が与えられた個人に対し①選挙のお知らせが世

帯主に届く、②お知らせがなくても投票できる、③投票日に投票できない場合は期日前投票や不在者投票ができる、等を記載したハガキ等を送付すること

→20歳の方に対しては、二十歳の集いなどで啓発冊子を配付している。18歳にもハガキ等を送付することは、経費面だけでなく事務の負担も大きいため難しいが、他都市のやり方などを研究したい。中学3年生、高校3年生には、それぞれの年齢に応じた啓発冊子を配付している。また、主に高校2年生向けの出前授業で投票の仕方などを周知している。(門田)

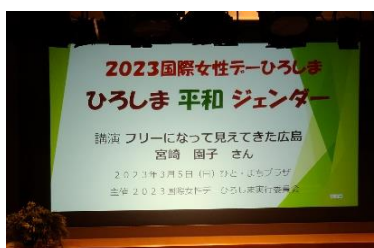


2023 国際女性デーひろしま (報告)

日時：3月5日(日)13時～15時30分

会場：合人社ウエンディひと・まちプラザ

参加者：135人



★講演

ーフリーになって見えてきた広島ー

講師：宮崎園子さん

朝日新聞を退職して一年、宮崎さんが組織に属さないフリーランスとしての立場で広島に生きる今を語られた。現在は放課後児童クラブの役員や市民団体の運営委員、被爆者団体の手伝いなど地域とのかかわりを持ちながら、地域社会に対して傍観者でいたくないという思いが強く、市民社会の一員としてその立場から見えてくる社会問題をジャーナリズムのスキルを活かしつつ、一人

の生活者としての目線で考えるという使命感を語られた。

宮崎さんから「どこもかしこも男性優位社会」の話があり、組織にいたときの経験に基づく差別の実態も伝えられ共感しながら聴き入りました。日本のジェンダーギャップ指数が146か国中116位を目の当たりにした講演でした。

★活動報告

●学生への食料支援 その後

学生食料支援プロジェクトあおぞら 檜谷篤さん

2020年コロナ禍の影響で始まった学生への食料支援。支援の今と食料支援の場で聴いてきた学生たちの生の

声や実態が紹介された。学生からは、想像を超える切実な実態が寄せられ、これまで 57 回 3000 人近くの学生が利用するプロジェクトに発展した。国や自治体が学生の声に耳を傾け、適切な支援を講じてもらいたいと支援の拡充を求める取り組みも報告された。

●「生理の貧困」の取り組みから

進徳女子高校教諭 長谷川紗葵さん

コロナ禍の中、生徒たちが混沌とする社会につぶされことなく「希望」をもって「自立」した生き方を選択してほしいとの思いで選んだクラステーマ。「生理の貧困」の学びをとおして、生徒たちに芽生えた「学びたい、発信したい、繋がりしたい」を大切にしたいという教諭の

思いが臨場感豊かに報告された。進徳女子高校には生理用品が常備されている。

●どうなる広島図書館

広島の文化の未来を考える教職員の会 藤川晴美さん

広島の中央図書館と映像文化ライブラリー等の商業施設エールエールA館への移転をめぐって、移転反対の声が市民からあがっている。なぜ移転が問題なのか、移転する必要があるのかなど、様々な角度から報告があった。

世界に誇れ、行ってみたくなる、通いたくなる図書館を広島に造ってほしい、その思いが会場いっぱいに広がった。(森)

広島市議会本会議 傍聴記 (2月21日13時~14時45分)



べられるのでは、なぜ議員の質問に答えないのだろう…疑問が浮かびます。

決して少なくない移転費用、私たち市民が納めた税金が使われる、平和文化の中心となる広島市立中央図書館。移転方針公表から市議会での関連予算提案までわずか4カ月だったこと、議論が尽くされていないと複数の議員が訴えていること等、メディアの報道のありかたにも思いが及び、個人的には、こんな風に決まってしまったてよいのだろうかと考えてしまいました。短時間の傍聴でしたが、実際に議場にでかけ、見て、聞く。議会に、市政に、多くの市民が注目していることを示す。それが第1歩だと痛感しました。(門田)

広島市女性団体連絡会議 (ひろしま WENET) からのお知らせ

◆ 広島市女性団体連絡会議 2023 年度総会

日時：6月3日(土) 13:30~15:30
場所：ゆいぽーと 3階 音楽練習室1

◆ ヒロシマ平和の灯のつどい

日時：7月31日(月) 17:30~
場所：平和記念公園等

たくさんの方のご参加をお待ちしています。



まずは、話してみませんか？



WENET ニュース第55号 2023年3月発行

発行者 広島市女性団体連絡会議(広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付)

責任者 貴田月美